

2014



2014 年度 年次報告書

KIF ANNUAL REPORT

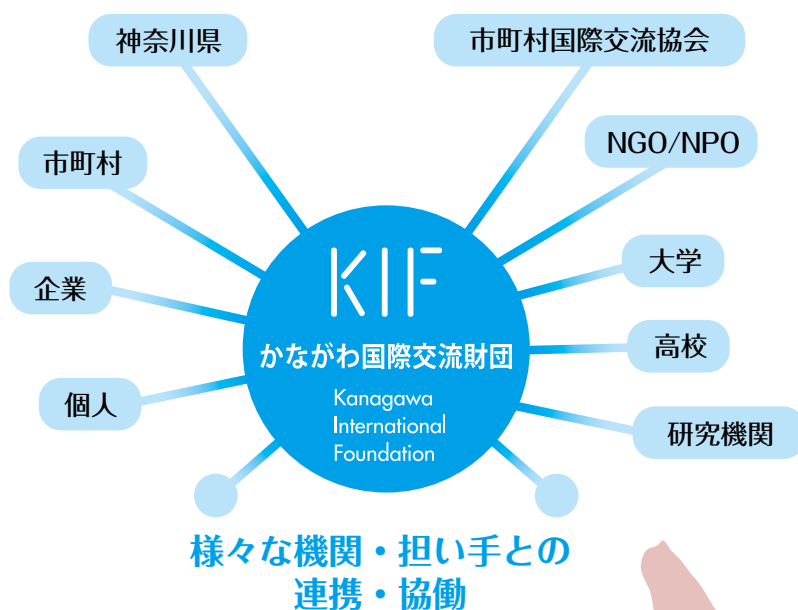


公益財団法人 **かながわ国際交流財団**
Kanagawa International Foundation



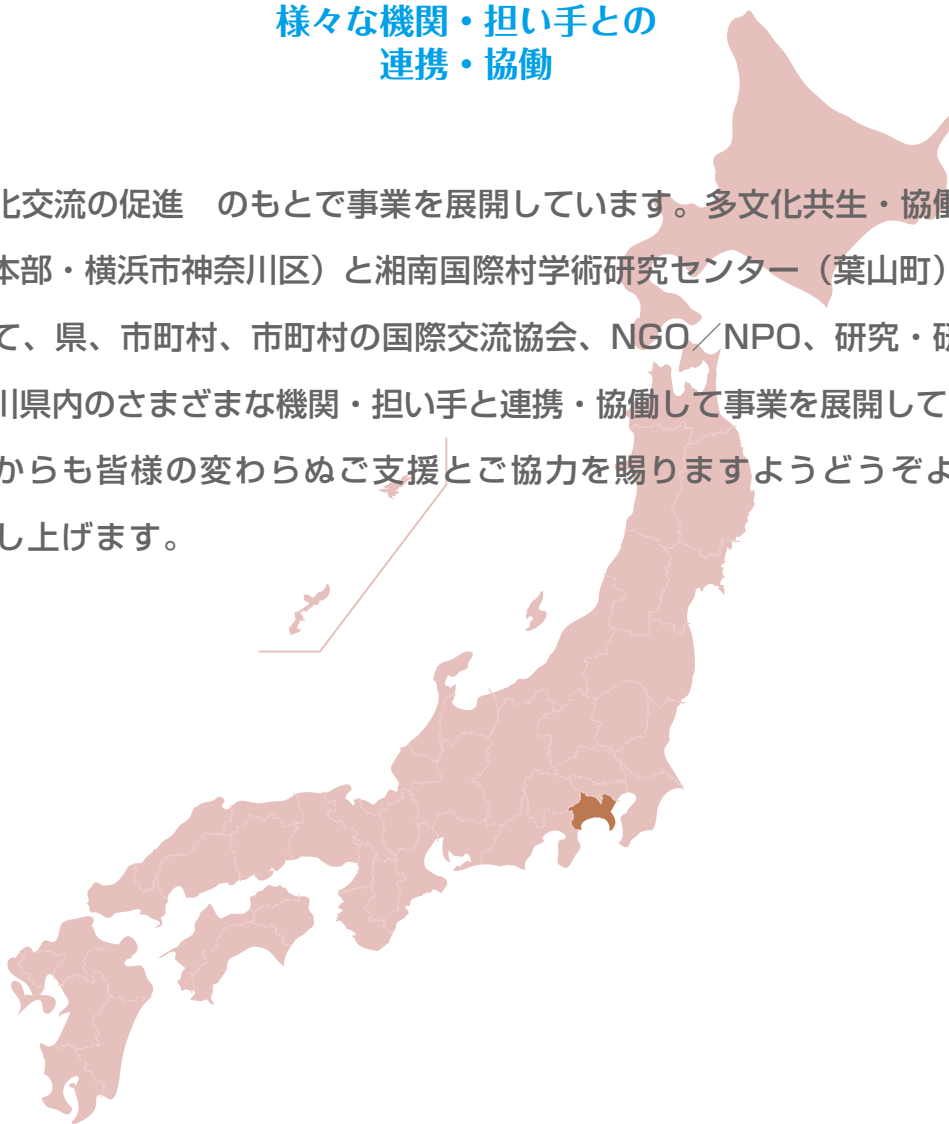
かながわ国際交流財団（KIF）は、全国に先がけ神奈川県と県内市町村、企業等により設立された、県内全域を対象として国際交流分野の取組みを推進することを目的とした団体^(※)です。すべての人が、国境や人種、文化の違いをこえて、いきいきと心豊かに暮らせる社会を形成し、国際性豊かな人材を育て、地域からの将来像を提案するため、4つの事業の柱Ⅰ 多文化共生の地域社会かながわづくり Ⅱ 県民・NGO等との連携・協働による国際活動の促進 Ⅲ 国際性豊かな人材の育成 Ⅳ 学





術・文化交流の促進のもとで事業を展開しています。多文化共生・協働推進センター（本部・横浜市神奈川区）と湘南国際村学術研究センター（葉山町）を活動拠点として、県、市町村、市町村の国際交流協会、NGO／NPO、研究・研修機関など神奈川県内のさまざまな機関・担い手と連携・協働して事業を展開しています。

これからも皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。



※当財団は、1977年設立の（財）神奈川県国際交流協会（KIA）と1992年設立の（財）かながわ学術研究交流財団（K-FACE）が統合し、2007年4月に（財）かながわ国際交流財団（KIF）として新たなスタートを切り、2012年には公益財団法人に認定されました。



KIFの事業を構成する4つの柱

I



I

多文化共生の地域社会 かながわづくり

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化や違いを認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていくことができるよう、外国人住民への情報提供と安全サポート、外国人コミュニティとの連携、外国につながる子どもたちへの支援、多文化理解の促進などさまざまな取り組みを行っています。

II



II

県民・NGO等との連携・ 協働による国際活動の促進

「かながわ民際協力基金」の運用益を活用して県内のNGO/NPOが実施する先進的かつニーズの高い国際活動（海外協力、国内協力、担い手育成など）と、県内各地で実施される外国人住民の社会参画や自立を促進するための取り組みに助成を行っています。

Ⅲ



Ⅲ 国際性豊かな人材の育成

国連大学や首都圏を中心とする大学等とのネットワークを活かし、環境、開発、貧困などの地球的規模の課題解決に必要な視野を持ち、国際社会で活躍できる人材を育てます。またグローバル化の進展に伴う地域の多文化化に対応できるよう、多文化共生の地域社会づくりを担う人材を育成します。特に、大学院・大学生、高校生世代、留学生などの若い世代を対象にしています。

Ⅳ



Ⅳ 学術・文化交流の促進を通じた将来像の提案

学術・文化交流を通じ、魅力あるかながわを創造するための知恵を国内外から吸収・蓄積し、グローバル化の中で特色のある地域文化の再生・振興を図りながら、「持続可能なかながわの地域社会づくり」に貢献します。

地域から将来像を提案する取り組みや、これからのミュージアムなどの文化施設が果たす機能や社会的役割について考える取り組みを行っています。

I 多文化共生の地域社会かながわづくり

●外国人住民に情報を提供しました



外国人住民が安心して生活し、必要な情報が確実に届くよう、電子メール、ホームページ、印刷物など、いろいろな方法で情報を提供しました。

●電子メール

外国人住民に役立つ行政・生活情報等を多言語で編集し、登録者に対し、多言語情報メール「INFO KANAGAWA」の配信を行いました。（配信回数58回）

●ホームページ

外国人住民が病気やけがの症状を医師に伝えるためのツールである「多言語医療問診票」、県内の教育・労働・すまい・相談窓口などの情報をまとめた「かながわ多言語生活ガイド」、県内で外国人住民向けに開催されている教室を地図付きで紹介する「かながわ日本語教室・学習補習教室・母語教室マップ」などを運営しました。

●印刷物

本誌14、15ページでご案内している多言語資料の普及を行いました。

●災害に備え安心と安全をサポートしました



災害時に外国人住民への情報提供が円滑に行えるよう、神奈川県国際課やNPO 法人多言語社会リソースかながわ（MIC かながわ）と連携し、「神奈川県災害多言語支援センター」の設置・運営訓練を行いました。また、県内の政令市及び政令市の国際交流団体に呼びかけ、災害時外国人支援のための連絡会を開催し、情報交換と演習を行いました。外国人住民に対しては、多言語防災リーフレット「災害のときの便利ノート」及び災害時・緊急時の意識啓発マグネットを作成し、県内各地で防災啓発セミナーを開催しながら普及しました。

●外国人コミュニティとの連携を強化しました



●「かながわ・こみゅにてい・ねっとわーく・さいと」を運営しました

外国人住民の暮らしに役立つ情報、支援者が使えるツール、多文化共生をテーマとした交流イベントなどいろいろな情報をまとめたポータルサイトを運営し、外国人コミュニティとの連携も強化しました。

・アクセス数：40,439件 ・情報掲載数：88件

●外国人コミュニティとの意見交換会を開催しました

外国人コミュニティとKIF、外国人コミュニティ同士のネットワークの形成や情報交換などを目的に、意見交換会を2回開催しました。

・参加者数合計：35名（中国、台湾、韓国、フィリピン、ブラジル、ペルー、ベトナム、インドネシア、カンボジア、ネパール、ラオス）

・テーマ：「多言語情報の形態、テーマと内容、普及の方法について」
「外国人コミュニティの取り組みについて意見・情報交換」



●外国人住民子育て支援事業を実施しました



外国人集住地域の保育園において、多文化子育てサポート窓口を開設し、多文化サポーターが外国人保護者と保育園のコミュニケーションを支援しました。サポーターは外国人保護者に子育てについての情報提供と相談対応を行い、保育士向け研修会や外国人保護者と保育士の交流会等を開催しました。その他、保健師や助産師が外国人世帯を訪問する際にも多文化サポーターの派遣を試行しました。さらに、保健・医療の現場における外国人の子育てについて把握するため、アンケート調査、ヒアリング調査を実施しました。

●外国につながる子ども支援の取り組みを進めました



県・市町村教育委員会やNGO/NPO等の間で情報と意見の交換を行う会を開き、子どもをサポートするノウハウや先進事例等の情報共有を行いました。また、市町村教育委員会と連携・協力し、国際教室担当教員や日本語指導協力者を対象に研修を実施しました。さらに、「外国につながる子どもの高校進学や入学後の支援」をテーマにフォーラムを開催しました。

その他、小中学校の先生や地域のボランティアの方々が外国人保護者や子どもに県内の中学校生活について説明する際の手助けとなるよう、多言語パンフレット「外国人保護者・生徒のための中学校生活を充実させる10のポイント」を作成し、学校や地域に普及しました。

●多文化ソーシャルワーク講座を開催しました



外国人住民が抱える生活課題の解決のために、文化的背景の違いを踏まえながらケースワークやコミュニティワーク等を行うことができる人材の育成を目的とした「多文化ソーシャルワーク講座」（計5回）を、神奈川県から受託して開催しました。参加者は、ソーシャルワークや支援に必要な知識を学び、外国人ゲストとの面接の演習や、グループ活動、フィールドワーク等を行いました。

●多文化理解を促進するためのリーフレットを作成し、講師派遣を行いました



多文化理解を促進するためのリーフレットを作成しました。また、「多文化共生の地域づくり」などをテーマに財団職員を講師として研修会に派遣（計11回）しました。

神奈川県内で最大規模の多文化共生関連イベントである「あーすフェスタかながわ2015」には実行委員及び企画委員として参加しました。

Ⅱ 県民・NGO等との連携・協働による国際活

2014年度は、10件への助成が決定しました

●海外協力活動



- 団体名：NPO法人 光の子どもたちの会
- 事業名：ブラジル北東部、カノア・ケブラーダ地区における全日制保育園整備プロジェクト（助成額：380,000 円）
- 主たる活動地域：ブラジル（カノア・ケブラーダ）
- 事業の概要：治安悪化・ストリートチルドレン・虐待・家庭崩壊などが急増したカノア・ケブラーダ地域で、子育てに不安を抱える家族のために全日制保育園の実現を目的として、現地にある保育園の整備を行います。

●国内協力活動



- 団体名：NPO法人在日外国人教育生活相談センター・信愛塾
- 事業名：在日外国人のための教育・生活・人権などにかかわる伴走型相談・「支援」事業（助成額：2,000,000 円）
- 主たる活動地域：横浜市（南区）
- 事業の概要：横浜市南区と中区に暮らす外国人の教育・生活・人権に関わる相談活動を無料で行い、様々な課題を学校や行政などの関係機関との連携を通して具体的に解決する伴走型の相談・「支援」事業を実施します。



- 団体名：多文化まちづくり工房
- 事業名：集住地域における外国人住民のための相談体制充実事業（助成額：2,000,000 円）
- 主たる活動地域：横浜市（泉区）
- 事業の概要：横浜市泉区と大和市にまたがるいちょう団地において、地域のニーズが高い言語で、外国人住民への生活相談、情報発信を行うとともに、そのための人材育成とネットワーキングを行います。



- 団体名：学校法人国際学園
- 事業名：神奈川県における外国籍介護従事者就労定着・支援プロジェクト（助成額：327,000 円）
- 主たる活動地域：横浜市（神奈川区）
- 事業の概要：神奈川県で介護職に就いている定住外国人の就労の安定とEPA介護福祉士の介護業務への定着を目的に、介護記録の作成等の学習支援や相談対応を行うサロンを運営し、ネットワークを構築します。

●多文化共生の地域づくりの応援



- 団体名：NPO法人日本ペルー共生協会（AJAPE）
- 事業名：AJAPEよみきかせの会（助成額：200,000 円）
- 主たる活動地域：大和市
- 事業の概要：外国にルーツを持つ小学生が読むことの楽しさを感じ、自立的に学習に取り組めるよう、また相互交流が促進されるよう、参加型のプログラムを取り入れた読み聞かせの活動を行います。

活動の促進（「かながわ民際協力基金」助成事業）



- 団体名：多文化活動連絡協議会
- 事業名：外国につながりを持つ中学世代と保護者への情報提供と学習支援者の育成・連携作りプロジェクト（助成額：200,000 円）
- 主たる活動地域：川崎市
- 事業の概要：高校進学に関する情報を必要とする子ども・家庭に情報を提供する相談会を開催します。また、子どもたちが抱える課題についての社会への啓発、支援者の育成事業も行い、子どもへの支援の輪を強化します。



- 団体名：カワヤン P.W.C
- 事業名：アグーアラル(abakada)・タガログ 一言葉と制度のまなびをととして交流しよう（助成額：200,000 円）
- 主たる活動地域：川崎市（川崎区）
- 事業の概要：フィリピン出身者へのフィリピンの教育制度の提供、フィリピンにつながる子どもたちのアイデンティティ形成支援、日本人住民へのタガログ語学習支援や在日フィリピン出身者との交流会を行います。



- 団体名：NPO法人 在日カンボジアコミュニティ
- 事業名：在日カンボジア人の日常生活の向上及び明るい日本社会につなぐ事業（助成額：200,000 円）
- 主たる活動地域：横浜市、大和市、綾瀬市、平塚市、相模原市など
- 事業の概要：日本の制度や仕組みで理解できないこともあるカンボジア出身の保護者と、日本の学校の中で成長している子どもたちが相互理解を進められるように、母語教室及び親子交流会、学習会・相談会の開催を行います。



- 団体名：SONRISA（ソソリサ）
- 事業名：南米人コミュニティに対する表現アートワークショップ（助成額：198,000 円）
- 主たる活動地域：藤沢市
- 事業の概要：外国語でミサが行われる藤沢カトリック教会において、異文化にストレスを感じている外国人住民を対象に表現アートのワークショップを継続的に開催し、個人、家族、コミュニティの各レベルでの力づけを行います。



- 団体名：非営利組織「小さな森の学校」
- 事業名：土曜寺子屋（学習支援）（助成額：200,000 円）
- 主たる活動地域：愛川町・厚木市（北部）
- 事業の概要：外国人住民が多い愛川町と厚木市で、学習支援を必要としているが経済的な理由で機会を得られない小中学生を対象に、主要教科の学習支援および相談活動を行い、子どものニーズに応えられる人材の育成も行います。

「かながわ民際協力基金」について

かながわ民際協力基金は、貧困と飢餓、環境、人権、平和など、地球規模の課題の解決と「共に生きる」開かれた地域社会づくりをめざして1993年に設置された基金です。その運用益を活用し、かながわのNGO/NPOが実施する先進的な事業に助成を行っています。2013年度から、新しく「多文化共生の地域社会づくり応援事業」という助成の枠組みを設置し、県内各地の実情やニーズに合った多文化共生の取組みを支援することにより、県内全域において持続可能な多文化共生の地域社会づくりを進めています。

かながわ民際協力基金に関するデータ（2015年3月31日現在）

基金額	674,037,903円	助成件数	127件	協働事業※1	6件
-----	--------------	------	------	--------	----

（※1）協働事業は、NGO/NPOとKIFが協働で実施する、国内協力、担い手育成などの事業です。2013年度をもって休止しています。

●助成件数の内訳（計127件）

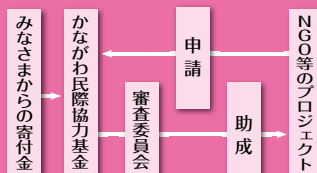
海外協力	国内協力	担い手育成	団体活動充実	緊急支援	多文化共生の地域社会づくり応援
33件	63件	12件	6件	5件	8件

●助成及び負担金の総額

助成総額（※2）	158,132,010円	協働事業における負担金総額	3,047,602円
----------	--------------	---------------	------------

（※2）ここでの助成総額とは、完了した事業への助成確定額と、まだ完了していない事業への助成予定額を合算したものです。

かながわ民際協力基金のしくみ



Ⅲ 国際性豊かな人材の育成

●世界情勢について学ぶ大学生・大学院生、留学生を支援しました

国際問題の研究と教育に関心を持つ大学との協力により、学部3、4年生と大学院生を主な対象として、世界情勢に即したテーマに沿って日英2か国語を使った3泊4日の「国連大学グローバル・セミナー湘南セッション」を国連大学と共催しました。

- 日 程 2014年9月1日(月)～9月4日(木) 3泊4日
- 会 場 湘南国際村センター、国連大学
- 講 師 山影進(青山学院大学教授)他13名
- 対 象 大学生、大学院生、留学生
- テ ー マ 国連の新たな挑戦 ―グローバル時代の安全保障
- 参加者数 87名



●アジアについて学ぶ大学1、2年生と留学生を支援しました

経済活動や文化の交流がますます活性化し、アジア地域の相互依存が深化するとともに、未来のアジア地域社会を担う人材の育成が急務です。「インカレ国際セミナー」は、「アジアの一員」としてアジア地域の諸課題や現状を理解できる国際人を育てるセミナーとして、首都圏の約10大学の協力により開催しました。

- 日 程 2014年11月28日(金)～11月30日(日) 2泊3日
- 会 場 湘南国際村センター
- 講 師 國分良成(防衛大学校長)他
- 対 象 学部1・2年生、留学生
- テ ー マ アジアの中の日本 ―安全・環境・エネルギー
- 参加者数 89名



●県内高校における国際教育活動を実施しました

県内の高等学校を対象に、講演会やワークショップ等の各種プログラムについて相談に応じ、高校生が地域と世界へ興味・関心を持つよう、財団のノウハウやネットワークを活用し、県内の高校に講師を派遣して国際教育を支援しました。

- 日 程 2014年4月～2015年3月
- 会 場 神奈川県内の高等学校
- 内 容 講演、ワークショップなど
- 実施数 20校(4,213人)

私立橘学苑高校、私立アレセア湘南高校、県立瀬谷西高校、私立創志学園クラーク記念国際高校横浜キャンパス、私立横浜女学院高校、県立座間総合高校、県立横浜緑ヶ丘高校、県立横須賀光明高校、県立横須賀高校(全日制)、県立横浜翠嵐高校、川崎市立橘高校、県立保土ヶ谷高校、横浜市立横浜総合高校、県立城郷高校、県立厚木高校、県立横須賀大津高校、県立麻生高校、県立横須賀高校(定時制)、県立神奈川総合高校、県立柏陽高校(実施順)



●高校生世代が世界に目を向ける機会を提供しました

「世界の入口に立とう」を共通のテーマとして、高校生世代が世界に目を向けること、多角的視点を獲得することを目的として青少年国際セミナー(K-PIT)を開催しました。第1回は、星久美子さん(特活)開発教育協会(DEAR)・梶谷真司さん(東京大学大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻准教授)を、第2回は、木下理仁さん(かながわ開発教育センター(K-DEC)事務局長/東海大学教養学部国際学科非常勤講師)・土屋陽介さん(立教大学兼任講師/開智中学・高等学校「哲学対話」担当講師)、朴英二さん(映画監督)らを講師に迎え、合計で85名の参加がありました。



●留学生を支援するさまざまな活動を行いました

神奈川県から「グローバル人材支援事業」を受託し、かながわ県民センター2階に開設された交流・情報発信スペース「かながわ国際ファンクラブ KANAFAN STATION (カナファン・ステーション)」の運営と、同ステーションでイベントの開催、情報提供・相談を行いました。ステーションでは年間6,634件の利用がありました。

イベントとしては、「かながわ国際ファンクラブ」の会員の留学生等とサポート会員（支援団体等）との交流会（カナファン交流会）、留学生を対象とした会社説明会や就職支援セミナー、企業見学会、住まいに関する相談会を開催しました。さらに、留学生を支援する「サポート・ファミリー」と留学生とのマッチングを行い、22組が成立、支援と交流の輪を広げました。



●グローバル人材の育成を応援しました

学校やステーションにおいて、講座・セミナーを開催し、高校生等若い世代の視野を広げ、コミュニケーション能力を伸ばすための事業を実施しました。留学生に講師として活躍する場を提供し、セミナーでは留学生と日本の若い世代が相互に交流しながら世界への関心を高められるようにしました。

カナファン・ステーションにおいては、11回にわたり、様々な国出身の留学生と神奈川県の高校生・大学生が交流する「インターナショナル・カフェ」を行いました。その他、各国の留学事情や留学支援制度などの情報を提供する講座を開催しました。



●留学生・グローバル人材を支援するために情報を発信しました

ポータルサイト「かながわ国際ファンクラブ」を運営し、留学生・グローバル人材、支援者に向けて情報を発信しました。同時にfacebookページの開設と運営をしました。

また、「かながわ国際ファンクラブ」の魅力を発信するため、留学生によるインターネットの番組の配信や、外国人の視点からの県西地域の魅力調査をおこないました。

- ポータルサイト「かながわ国際ファンクラブ」
<http://www.kanafan.jp>
- ポータルサイトのユーザー数 12,137件
- アクセス数 73,474件



※本ページの留学生・グローバル人材支援事業は、神奈川県から委託を受け、山陽印刷株式会社及び一般社団法人NAPと連携して実施しました。

Ⅳ 学術・文化交流の促進

●多様な視点から「コミュニティの再生」を考え、将来像を提案しました

グローバル化の潮流の中で、コミュニティにおいては地域文化や生活様式の画一化という影の部分の影響が大きくなりつつあり、地域のつながりや絆の重要性が見直されています。地域の独自性や多様性を活かしたまちづくりをするためには、私たち一人ひとりが抱く地域へのそれぞれの想いを尊重し、その違いを認め合いながらも、ひとつのかたちとして実らせていくことが必要です。

そこで、市民社会や民主主義のあるべき姿を振り返りつつ、社会の将来像をいかに描き、それを実現化させる担い手をいかに育てていくのかについて、研究者、自治体首長、ジャーナリスト、実務家などが集い、多様な視点から参加者のみなさんとともに議論を展開しました。



- テ ー マ 多様な豊かな地域社会を自分たちで育てるには～地域社会を活性化させる民主主義～
- 日 程 2014年9月20日（土）～ 21日（日）
- 会 場 湘南国際村センター
- モデレータ 神野直彦（東京大学名誉教授 / 地方財政審議会会長）
- 講 師 嘉田由紀子（前滋賀県知事）ほか
- 参加者数 62名

●湘南国際村の知的資源や研究活動の成果を発信しました

湘南国際村学術研究センターが、湘南国際村にある総合研究大学院大学（総研大）や（公財）地球環境戦略研究機関（IGES）、神奈川県立保健福祉大学などの研究機関と連携し、それらの知的資源を県民に還元する事業として、「湘南国際村アカデミア」と「カフェ・インテグラル」を開催しました。



●これからのミュージアムが果たす機能や役割について考えました

これまでのミュージアム・サミットにおいては、地域社会の中でミュージアムが果たす役割について様々な視点から議論されてきました。今回は特に「マネジメント」について焦点をあてた「フォーラム」として、地方美術館、国立美術館を取り巻く現況と、オーストラリアという多文化社会におけるミュージアムのあり方などについて検討しました。

また、前年度に開催された第6回ミュージアム・サミットの記録として『ミュージアムが社会を変える』（現代企画室）を出版することで、広くサミットの成果を発信しました。

- 日 程 2015年3月24日（火）
- 会 場 横浜美術館（横浜市西区）
- 講 師 逢坂恵理子（横浜美術館館長）、マシュー・トリンカ（オーストラリア国立博物館館長）、小松弥生（（独行）国立美術館理事兼事務局長）ほか
- 参加者数 40名



●持続可能な地域社会づくりを目指して、調査研究を実施しました

地域の政策課題の中から、緊急性が高く、中長期に影響が及ぶテーマとして「社会的マイノリティの参画が可能となる自治体の仕組みづくりに関する現状と課題」を選定し、名和田是彦氏（法政大学教授）等の助言のもと、2013年度から2か年にわたる調査研究に取り組んでいます。



KIFの出版物・ツール等のご案内

全ての情報は、KIFのホームページ及び「かながわ・こみゅにてい・ねっとわーく・さいと」

災害のときの便利ノート

外国人住民向けの防災啓発リーフレットです

災害用伝言ダイヤル（171）の使い方や避難所の過ごし方などを携帯に便利な大きさにまとめました。「持病の薬」や「パスポート番号」など、避難に必要な情報や連絡先を書きとめておけるようになっています。「災害のときの便利ノート」の使い方のチラシも多言語で作成しました。日本語教室や地域の防災訓練などで活用できます。



■発行：2015年2月

■言語：11言語（中国語（簡体字）、韓国・朝鮮語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、英語、タイ語、カンボジア語、ラオス語、ネパール語 ※日本語併記）

■これまでに作成した防災資料：防災啓発ポスター＆チラシ「災害の備えは大丈夫？」（2014.3）

中学校生活を充実させる10のポイント

外国人保護者・生徒に「中学校生活」を簡潔に説明できます

外国人保護者・生徒にとって理解が難しい日本の中学校の生活や学習、高校受験について、知っておくと安心な10のポイントを紹介しています。費用や用意するもの、一日の流れや受験の準備等について説明する材料として活用できます。



■発行：2015年3月

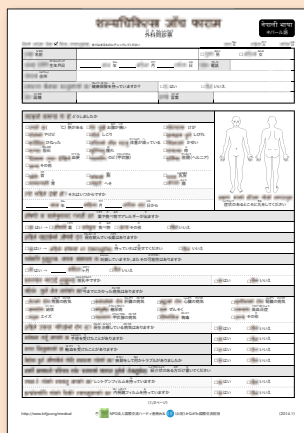
■言語：4言語（英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語 ※日本語併記）

■これまでに作成した支援者向け資料：「外国につながる生徒の高校進学サポートガイド」（2014.3）、「外国につながる子どもの未来を支えるために」（2013.3）、「外国につながる子どもがホッとする授業づくり」（2012.3）、「日本生まれの外国につながる子どもたち」（2011.3）

多言語医療問診票

医療機関で病気やけがの症状を伝えるときに使えます

NPO法人ハーティ港南台と協働で作成したホームページです。外国人住民が病気やけがの症状を医師に伝えるためのツールです。



■言語：18言語（中国語、韓国・朝鮮語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、英語、タイ語、インドネシア語、カンボジア語、ネパール語、ラオス語、ドイツ語、ロシア語、フランス語、ベルシャ語、アラビア語、クロアチア語 ※日本語併記）

■科目：11科目（内科、外科、整形外科、脳神経外科、精神科、小児科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科）

かながわ日本語教室・学習補習教室・母語教室マップ

ボランティアが運営している教室情報を地図付きでご案内します

神奈川県内の日本語教室・学習補習教室・母語教室の情報を探しやすいまとめてホームページで紹介しています。



■掲載件数：105件（日本語教室72件、学習補習教室16件、母語教室17件）

※横浜、川崎、相模原、横浜市の日本語教室の情報は、それぞれ（公財）横浜国際交流協会、（公財）川崎市国際交流協会と川崎日本語連絡会、さがみはら国際交流ラウンジ、NPO法人横須賀国際交流協会のホームページにリンクしています。

からご覧いただけます。

かながわ・こみゅにてい・ ねっとわーく・さいと

外国人住民の暮らしを支えるポータルサイトです

外国人住民の暮らしに役立つ情報、支援者が使えるツール、多文化共生をテーマとした交流イベントなどいろいろな情報をまとめたポータルサイトです。



■掲載した情報の例：外国人コミュニティや支援団体などが開催する交流イベント。外国人のための無料健康相談会、多言語の高校進学ガイダンス、多文化共生に関するセミナー・フォーラム・資料の紹介など

外国人保護者のための予防接種のしおり

保育園での保護者との円滑なコミュニケーションのために

予防接種の情報が届くように外国人保護者向けに子どもの予防接種について多言語でまとめたリーフレットです。予防接種のスケジュールや、気をつけることなどが書いてあります。



■発行：2014年3月
■言語：10言語（中国語、韓国・朝鮮語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、英語、タイ語、カンボジア語、ラオス語 ※日本語併記）

外国につながる親子のための入園のしおり

保育園での保護者との円滑なコミュニケーションのために

外国につながる親子に保育園での生活や持ちものを説明するときの資料です。各言語のWordファイルをダウンロードし、保育園ごとに、用語や時間などを入力して活用できます。



■発行：2014年3月
■言語：9言語（やさしい日本語、中国語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、英語、カンボジア語、ラオス語）

外国人住民サポート アイデア集

自治体や自治会等でご活用ください

「多言語情報」「防災・減災」「健康・保健」「出産・子育て」「コミュニティ」の5つのテーマで、外国人住民をサポートするときのヒントや情報を紹介しています。



■発行：2014年3月
■それぞれの内容：①多言語情報編「多言語情報を届けるポイント」「色々な媒体を活用して」、②防災・減災編「災害に備えるために」「災害発生時に活用できるリソース」、③健康・保健編「外国人住民の健康のために」「医療サービスをより安心して受けるために」、④出産・子育て編「妊娠から出産まで」「乳幼児期から就学まで」、⑤コミュニティ編「多文化クイズ」「神奈川県に住む外国籍の人々」

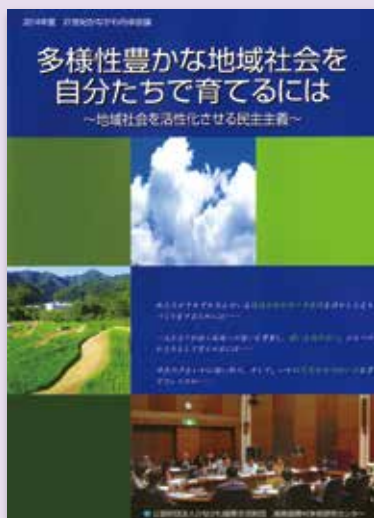


KIFの出版物のご案内

多様な地域社会を自分たちで育てるには ～地域社会を活性化させる民主主義～

2014年度の21世紀かながわ円卓会議の講演概要です。

多様な地域社会をつくるために求められる民主主義や市民社会の姿と、その担い手をいかに育てていくのかについて多様な視点から検討しました。基調講演は、前滋賀県知事の嘉田由紀子氏。



■2015年3月発行 56頁／定価 400 円（税込）

地域力をいかに育てるか ～“分かち合い”で築くかながわの未来～

2013年度の21世紀かながわ円卓会議の講演概要です。

制度、主体、機能という3つの切り口から、自治体やNPOなどの取組みを参照しつつ、地域力を育てるために必要となるものについて考えました。基調講演は、哲学者の内山節氏。



■2015年3月発行 60頁／定価 400 円（税込）

知をめぐる対話

湘南国際村学術研究センターが発行したインタビュー集です

- 私たちの世界**：樺山紘一（東京大学名誉教授／印刷博物館館長）「国際政治も人と人のつながりでー」、藤原帰一（東京大学大学院法学政治学研究科教授）「国際政治と映画と私」、田中均（元外務審議官）「東アジア共同体構想の再考」
- 豊かに生きる**：竹内恒夫（地球環境戦略研究機関上席研究アドバイザー）「今度の冬は薪も多めに準備しておかないとー」、池内了（総合研究大学院大学葉山高等研究センター長）「ゆっくりと変わる私たち」、江藤裕之（長野県看護大学外国語講座准教授／湘南国際村学術研究センター客員研究員）「『名著』と『器』～知的で豊かな人生とは」
- 女性と自立**：坂東眞理子（昭和女子大学学長）「ギア・チェンジで乗り切れ！ー育児と仕事の両立ー」、山崎美貴子（神奈川県立保健福祉大学学長）「無理なく、違和もなく」
- アート之力**：建畠哲（国立国際美術館長）「ある美術館をめぐる物語」、北川フラム（株式会社アートフロントギャラリー代表取締役）「市民生活とつながるアートを」、山梨俊夫（神奈川県立近代美術館長）「かわるもの・かわらないもの」
- 未来を描く**：小平桂一（総合研究大学院大学学長）「人類の世界観を新しくしたいー」、鈴木佑司（法政大学法学部教授）「かながわの国際化を見つめて」、神野直彦（東京大学大学院経済学研究科教授）「時代の転換点に向き合うこと、未来を描くこと」



■2009年9月発行
70頁／定価500円（税込）

知をめぐる対話 vol.2

湘南国際村学術研究センターが発行のインタビュー集2作目です

- 絵の力、言葉の力**：佐伯胖（青山学院大学教授）「絵を見ること、わかること、それが文化的実践になるとき」、高島肇久（株式会社日本国際放送代表取締役社長）「言葉の重み～どのように培い、どのように伝えるか」、武部恭枝（コミュニケーション戦略コンサルタント／国際会議同時通訳者）「名著との対話がリーダーシップを創る」
- 社会を見つめ直し、理念を描く**：野村雅一（総合研究大学院大学理事・副理事長／国立民族学博物館名誉教授）「進む社会的な記憶喪失～いま私たちに求められるもの」、色平哲郎（JA 長野厚生連・佐久総合病院地域医療部地域ケア科医長）「病める日本と命の格差に向き合う」、諸富徹（京都大学大学院経済学研究科教授）「『冷静な頭脳と温かい心』で経済ビジョンを」、大芝亮（一橋大学大学院法学研究科教授）「東アジアの進むべき道とは～取り残される人々のいない社会をめざして」
- ひと、そして市民社会を育む**：滝田賢治（中央大学法学部教授）「今を生きることそれを次世代に生かすこと」、田中弥生（独立行政法人大学評価・学位授与機構准教授）「今、求められる市民性の創造NPOの課題と可能性」、川崎あや（特定非営利活動法人アクションポート横浜理事）「異端を恐れるなかれ～私の市民活動論」



■2011年2月発行
56頁／定価400円（税込）

ミュージアムが社会を変える

「第6回21世紀ミュージアム・サミット」を書籍化しました。

ミュージアムはなぜ社会に必要とされるのか。文化の担い手であるミュージアムの役割とは…。海外との比較や国内事例をふまえて、参加者全員で熱く話し合った2日間の記録です。



■2015年1月発行／（株）現代企画室／232頁
本体価格2,000円+税／ISBN：978-4-7738-1501-62

地域に生きるミュージアム

「第5回21世紀ミュージアム・サミット」を書籍化しました

ミュージアムを使う人、運営する人、作る人、さまざまな立場からミュージアムに関わっている人々が集い、直面する課題を解決するために討論した記録です。



■2013年2月発行／（株）現代企画室／235頁 本体価格 2,000 円+税
ISBN：978-4-7738-1301-2

100人で語る美術館の未来

「第4回21世紀ミュージアム・サミット」を書籍化しました

「第4回サミット」の内容と、後日行われた美術館関係者及び美術館を取り巻く多彩な専門家による座談会・インタビューを収録。アートの本質と美術館の社会的な意義が多様な視点から紹介されています。



■2011年2月発行／慶應義塾大学出版会／236頁 本体価格 2,500 円+税
ISBN：978-4-7664-1801-9

ミュージアム新時代

「第3回21世紀ミュージアム・サミット」を書籍化しました

美術館建設ラッシュの続く中国。拡張路線を探るルーヴル美術館。美術館に押し寄せる変化の波に対し、世界の美術館長たちはどのようなビジョンをもって取り組んでいるのか、白熱した議論を収録しました。



■2009年3月発行／慶應義塾大学出版会／348頁 本体価格2,500円+税
ISBN：978-4-7664-1608-4



KIFにご寄付をいただいた 団体などからのメッセージ

神奈川県教職員組合

神奈川県教職員組合は、子どもたちにゆとりある豊かな教育を保障するため、様々な活動にとりくんでいます。「かながわ教育フェスティバル」において（公財）かながわ国際交流財団と連携し「外国につながる子どもたちへの支援教材や開発教材」を展示ブースで参加者に紹介しました。

今後も、外国につながるのある子どもたちにかかわる活動を中心とした多文化共生の地域社会づくりや地域社会の推進をすすめていきます。

●神奈川県教職員組合ホームページ <http://www.ktu.or.jp>

神奈川県高等学校教職員組合

神奈川県内の県立高校には、外国籍だったが日本国籍を取得した、父親は日本人だが母親は外国人、外国での生活が長かったため日本語の習得が不十分などの生徒も含め、多くの「外国につながる生徒」が在籍しています。神奈川県高等学校教職員組合では、在日外国人小委員会などを中心にさまざまなとりくみを行っていますが、多文化共生社会の実現にはまだまだ課題が山積しています。（公財）かながわ国際交流財団の事業に期待するとともに、これからも、全ての子どもたちが、いきいきと暮らせる社会をめざして活動していきます。

●神奈川県高等学校教職員組合ホームページ <http://www.fujidana.com>

生活協同組合ユーコープ

私たち生活協同組合ユーコープは「『人－社会－自然』の調和ある平和な社会の実現に貢献する」という基本理念のもと、開かれた地域社会づくりに向けて市民による国際協力活動の推進をめざす（公財）かながわ国際交流財団の事業を応援し、今後のさらなる活躍に期待いたします。

●ユーコープ ホームページ <http://www.ucoop.or.jp/>

ゆめ観音実行委員会

ゆめ観音実行委員会では、毎年9月に大船観音を会場に「ゆめ観音アジアフェスティバル」を開催しております。舞台ではアジア各国各地域の民族・宗教・人種を超えた舞踊や音楽が披露され、会場には食や民芸品、フェアトレード製品のブースが並びます。私たちは、（公財）かながわ国際交流財団の、アジアを支援する活動に賛同し微力ながら協力させていただいています。

●ゆめ観音公式ホームページ <http://soto-zen.net/yume>

2014年度にKIFにご寄付をくださった企業・団体

株式会社相場教材センター
学校法人石川学園横浜デザイン学院
神奈川県教職員組合
神奈川県高等学校教職員組合
生活協同組合ユーコープ
有限会社青史堂印刷

相洋産業株式会社
株式会社中萬学院
テラインターナショナル株式会社
有限会社にほんご書店そうがく社
南サークル
ゆめ観音実行委員会

※その他個人の方々からご寄付をいただきました。ありがとうございます。



ご寄付のお願い

●寄付金の活用について

当財団の事業は、県からの補助金、基本財産の運用益、会員の方々からいただいた会費のほか、皆さまのご寄付によって運営されています。次の4つの事業からご希望の事業を指定して寄付していただくことができます。当財団へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

1. 多文化共生の地域社会かながわづくり
2. 県民・NGO等との連携・協働による国際活動の促進
3. 国際性豊かな人材の育成
4. 学術・文化交流の促進

●ご寄付は郵便振替で

金融機関及び口座番号 ゆうちょ銀行 00280-4-49894 加入者名 公益財団法人かながわ国際交流財団
--

※通信欄には、指定する事業名または番号（1～4）を上記から選んでご記入ください。指定がない場合は当財団で用途を決めさせていただきます。

※銀行振込をご希望の方はお問い合わせください。

※当財団は平成24年4月1日に公益財団法人へ移行しましたので、所得税・法人税の優遇措置が受けられます。詳しくは国税庁のホームページをご覧ください。

<http://www.nta.go.jp/taxanswer/shotoku/1150.htm>

<http://www.nta.go.jp/taxanswer/hojin/5283.htm>

●ご寄付に関する問合せ先

（公財）かながわ国際交流財団 寄付担当

〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39 湘南国際村センター内

TEL: 046-855-1820 FAX: 046-858-1210 E-mail: donation@kifjp.org

●財団ホームページへのバナー広告の掲示もお受けしております。詳細は上記問合せ先までご連絡ください。

貸借対照表

2015年3月31日現在

(単位：千円)

科 目	2014年度	2013年度
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	10,041	30,994
その他	2,193	777
流動資産合計	12,234	31,771
2. 固定資産		
基本財産	708,481	675,640
特定資産	4,023,391	3,713,030
その他固定資産	4,842	4,967
固定資産合計	4,736,715	4,393,638
資産合計	4,748,949	4,425,409
II 負債の部		
1. 流動負債合計	4,403	3,905
2. 固定負債合計	42,320	42,320
負債合計	46,723	46,225
III 正味財産の部		
1. 指定正味財産	4,462,283	4,117,151
(うち基本財産への充当額)	(707,460)	(674,640)
(うち特定資産への充当額)	(3,754,822)	(3,442,511)
2. 一般正味財産	239,942	262,032
(うち基本財産への充当額)	(1,020,400)	(1,000)
(うち特定資産への充当額)	(226,248)	(228,198)
正味財産合計	4,702,225	4,379,183
負債および正味財産合計	4,748,949	4,425,409

正味財産増減計算書

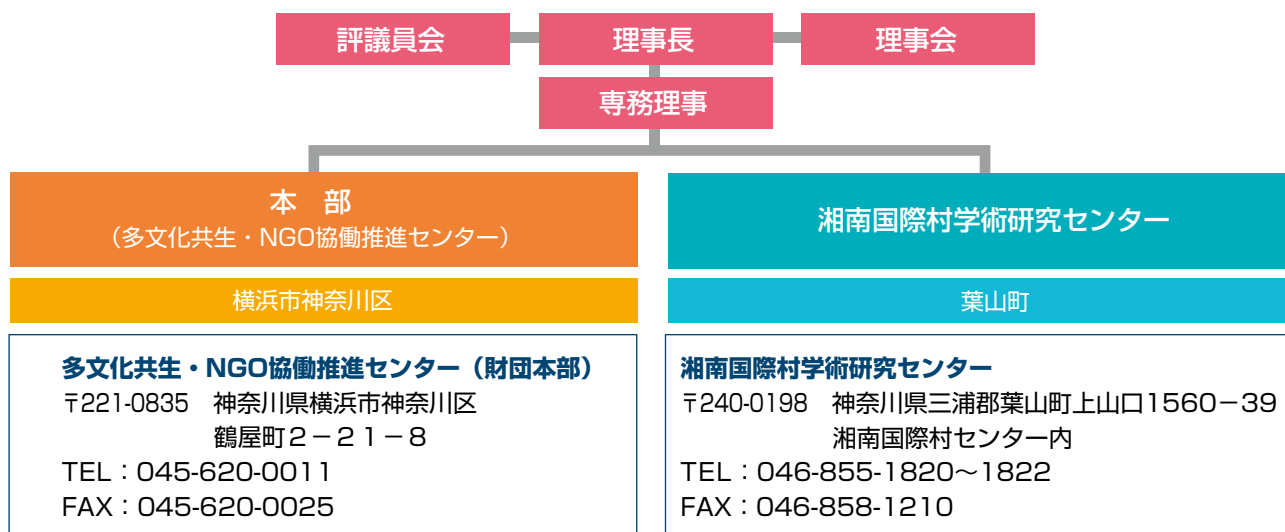
2014年4月1日～2015年3月31日

(単位：千円)

科 目	2014年度	2013年度
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1)経常収益	152,104	156,448
(2)経常費用	205,676	229,077
評価損益等調整前当期経常増減額	▲53,572	▲72,628
投資有価証券売却損益等	31,481	—
当期経常増減額	▲22,090	▲72,628
2. 経常外増減の部		
(1)経常外収益	—	—
(2)経常外費用	—	—
当期経常外増減額	—	—
当期一般正味財産増減額	▲22,090	▲72,628
一般正味財産期首残高	262,032	334,661
一般正味財産期末残高	239,942	262,032
II 指定正味財産増減の部		
当期指定正味財産増減額	345,132	188
指定正味財産期首残高	4,117,151	4,116,962
指定正味財産期末残高	4,462,283	4,117,151
III 正味財産期末残高	4,702,225	4,379,183



KIFの組織図



KIFの役員等

2015年7月1日現在（50音順）

評議員 11名	柏 木 教 一	日本労働組合総連合会神奈川県連合会会長
	梶 島 洋 美	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授
	三 枝 康 雄	東京成徳大学経営学部准教授
	佐 藤 光 徳	神奈川県市長会常務理事兼事務局長
	塩 原 良 和	慶応義塾大学法学部教授
	鈴 木 和 夫	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会理事兼事務局長
	鈴 木 順	神奈川県町村会常任理事兼事務局長
	細 谷 早 里	関東学院大学経済学部教授
	松 野 勝 民	特定非営利活動法人多言語社会リソースかながわ理事長
	丸 山 善 弘	神奈川県生活協同組合連合会専務理事
	吉 井 隆	三井不動産株式会社開発企画部上席主幹
理 事 10名	高 橋 忠 生	公益財団法人かながわ国際交流財団理事長
	水 田 秀 子	公益財団法人かながわ国際交流財団専務理事
	上 野 宏 之	独立行政法人国際交流基金コミュニケーションセンター部長
	岡 田 泰 伸	総合研究大学院大学学長
	鈴 木 江理子	国士舘大学文学部教授
	鈴 木 佑 司	法政大学特任教授
	中 和 子	ユッカの会代表
	林 義 亮	株式会社神奈川新聞社取締役兼論説主幹
	水 沢 勉	神奈川県立近代美術館館長
	森 茂 岳 雄	中央大学文学部教授
監事2名	内 田 俊 夫	内田会計事務所 公認会計士
	長 田 誠	元神奈川県自治総合研究センター所長
名誉顧問	福 原 義 春	株式会社資生堂名誉会長



財団概要・沿革

KIFの使命（ミッション）

世界に開かれた神奈川、世界と結ぶ神奈川を目ざして、人と人、地域と地域の国際交流及び国際協力の積極的な推進、多文化共生社会の実現、国際的な人材の育成並びに学術・文化交流を通じ地域文化の向上を図り、もって県民の福祉の向上と世界の平和と発展に寄与することを目的として設立。

1977（昭和52）年2月	（財）神奈川県国際交流協会(KIA)設立
1987（昭和62）年4月	「神奈川県国際研修センター」の管理運営を県より受託
1990（平成2）年4月	「神奈川県国際学生会館・白根」を開館
1991（平成3）年4月	「神奈川県国際学生会館・淵野辺」を開館
1992（平成4）年10月	（財）かながわ学術研究交流財団(K-FACE)設立
1993（平成5）年4月	「かながわ民際協力基金」を設置
1998（平成10）年1月	KIAの事務所を「県立地球市民かながわプラザ」内へ移転
2003（平成15）年4月	「県立地球市民かながわプラザ」の管理運営を県より受託
2006（平成18）年4月	「県立地球市民かながわプラザ」を指定管理者として運営開始(5年間)
2007（平成19）年4月	（財）神奈川県国際交流協会(KIA)と（財）かながわ学術研究交流財団(K-FACE)が統合し、（財）かながわ国際交流財団として新たなスタート
2010（平成22）年3月	「神奈川県国際研修センター」の管理運営終了
2011（平成23）年3月	「県立地球市民かながわプラザ」の指定管理者としての運営終了
2011（平成23）年4月	事務所を横浜市神奈川区鶴屋町へ移転
2012（平成24）年4月	公益財団法人へ移行
2013（平成25）年3月	「神奈川県国際学生会館・白根」、「神奈川県国際学生会館・淵野辺」閉館
2013（平成25）年4月	「グローバル人材支援事業（かながわ国際ファンクラブ KANAFAN STATION）」を県より受託

www.kifjp.org



公益財団法人かながわ国際交流財団



多文化共生・NGO 協働推進センター（財団本部）

〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-21-8
TEL：045-620-0011 FAX：045-620-0025



湘南国際村学術研究センター

〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39 湘南国際村センター内
TEL：046-855-1820～1822 FAX：046-858-1210